様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24　年　3 月　31 日現在

機関番号：２３６０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2011
課題番号：２１５９２９０９
研究課題名（和文）　介護保険施設の認知症高齢者の事前意思を尊重した終末期看護介入方法の開発
研究課題名（英文）Development of Nursing Practice in Accordance with Advance Directive for Old Persons with Dementia in Nursing Homes
研究代表者
渡辺　みどり　（WATANABE MIDORI）
長野県看護大学・看護学部・教授
研究者番号：60293479

研究成果の概要（和文）：
介護保険施設の認知症高齢者の事前意思を尊重した終末期ケアの内容と方法を明らかにすることを目的とした。全国の介護老人福祉施設看護管理者に質問紙調査を行った結果、認知症高齢者の事前意思聴取は低い現状にあった。さらに看護管理者 25 名から認知症高齢者によい終末期ケアができた体験事例を聴取した。その結果{ケアを計画する上で必要な情報の収集}、{把握した意思のケアへの適用}、{実施した終末期ケアの振り返りの視点}の具体的内容と方法が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：
The objective of this study is to describe details and methods of end-of-life care in accordance with advance directive for old persons with dementia in nursing homes. We surveyed nurse administrators of nursing homes throughout Japan through questionnaire, and found that efforts to obtain advance directive from elderly persons with dementia in nursing homes are very rare. Moreover, interviews with 25 nurse administrators about their successful experiences assisting with end-of-life care showed a clear understanding on how they can “collect information necessary for care planning”, “apply the advance directive as requested by the elderly person”, and “reflect on how they could have done a better end-of-life care”.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
総　計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学
キーワード：　認知症，　高齢者，　終末期ケア

１．研究開始当初の背景

我が国においては、高齢人口の急速な増大とともに認知症高齢者数も増加し、認知症ケアが高齢者政策の中心的課題となっている。介護老人福祉施設は現在 5500、介護老人保健施設は 3400 を越え、利用者の介護度の重度化や医療依存度の上昇への対応とともに、利用者の終末期ケアへの対応が求められている。近年の調査によれば、介護老人福祉施設利用者の 9 割以上が認知症を有し（厚生労働省，2004）、施設内死亡の増加が予測されるにもかかわらず、これに対応する看取りガイドラインを整備している施設は 1 割にとどまっている（医療経済研究機構，2003）。2007 年 10 月には、厚生労働省により、「終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン」が提案され、基本的な考え方や本人、家族と医療、ケアチームの話し合いと合意が強調されているが、最終的に高齢者の意思が終末期医療に反映されたものは、わずか 3～5%に過ぎない（井口，2006）。ことに認知症高齢者の場合には、意思決定の合意形成プロセスのあり方、事前意思をどのように把握し終末期ケアに反映させていくかなどは未だ明らかではない。

２．研究の目的

介護保険施設に入所している認知症高齢者が、事前意思を反映して質の高い終末期の生活が送れることをめざし、それを保障するための看護介入方法の構成要素を明らかにし、看護介入方法（案）を作成、実施しその効果を評価することを目的とした。

３．研究の方法

(1) 質問紙調査による全国調査

認知症高齢者の事前意思を尊重した看護実践内容と方法に関する実態の把握を行なった。単純集計と基本属性、施設の看護体制、看取り加算の取得、看護・介護職員の夜間体制、看取り件数などを統計的に解析した。

(2) 看護管理者へのインタビュー

上記（1）の質問紙調査によって回答が得られ、認知症高齢者の看取り経験のある施設の看護管理者にインタビュー調査を行う。インタビュー内容は、よい終末期ケアができた認知症高齢者の事例の概要とその経過とケア内容・方法である。得られたデータを逐語録とし、整理した上で、高齢者の意向の把握方法、高齢者の意向のケアへの活用、ケアの評価という点に着目し、質的帰納的に分析した。

４．研究成果

(1) 質問紙調査の結果

全国の介護老人福祉施設「認知症高齢者の事前意思を尊重した終末期ケア調査」を行い、全国介護老人福祉施設 1135 施設より回答を得た（回収率 21.6%）。認知症高齢者の終末期ケアに対して、施設独自のケア指針を持っている施設は 11%で、看護管理者は、「職員教育が不十分」、「具体的な方法が不明確」などの困難を抱えていることが明らかとなった。1137 施設から回答が得られた（回収率 21.5%）.

総死亡者のうち施設内死亡は 40.8%，病院死亡者 56.8%と病院で死亡した者の割合が高かった．看取り加算は 602 施設（52.9%）が取得し，事前意思を全ての入所者に聴取している施設は 408 施設（35.9%），ケースバイケースで聴取している施設は 492 施設（43.3%）であった.

認知症高齢者の事前意思決定を支えるために実施していた内容と方法については，その実施率が高かったものは「高齢者の健康状態を家族に具体的に報告する」(76.3%)，「高齢者から聴取できる場合には高齢者から，出来ない場合には家族から意思確認を行う」（71.2%），「家族に意思決定を求める場合には家族間で話し合って決めるように促す」（71.0%）であった．実施している割合が低かった項目は，「一見遠慮しがちな高齢者でも，じっくりと聞き意思を確認する」（10.3%），「高齢者がしっかりしているうちに意思確認を行う」(13.9%) であった.

認知高齢者の事前意思聴取は，7 割以上の施設で行われつつあった．事前意思決定支援のために行っているケア内容・方法で実施割合が高かった項目は，いずれも家族を対象に働きかけを行うものであった．これに対し，認知症高齢者に対してあらかじめ終末期の意思を聴取する項目は，10～20%にとどまっており，認知症高齢者の事前意思を把握する時期と方法，その意思をケアに反映させていく方法の具体化が急務である。

(2)看護管理者へのインタビュー調査結果

全国 25 施設の看護管理者から看取り体験の事例が聴取できた。分析の結果、｛ケアを計画する上で必要な情報の収集｝の領域に所属する【高齢者の事前意思を把握する】【高齢者の人柄・好み、生活スタイルを把握する】

の 2 カテゴリー、{把握した意思のケアへの適用}の領域に所属する【なじんだ人や事柄を尊重し、その継続を支える】【事前意思を直接確認しながらケアする】【どのような内容であっても捉えた意思を尊重する】【高齢者の状態と事前意思を家族に発信する】【記録物に残されている事前意思を尊重する】の 5 カテゴリー、{実施した終末期ケアの振り返りの視点}の領域に属する【家族の満足とケア提供者への感謝】【日々のケアに対する高齢者の表情や言動】【体調の持ち直し】【好み・なじみの尊重】の 4 カテゴリーが抽出された。

これらの結果、認知症高齢者の人柄・好み、生活スタイルを把握することは事前意思の活用、ひいては実施したケアを振り返る手がかりとなり得る。この過程において家族のケアとケア決定への主体的参加を促し、その高齢者の日常生活を継続できるよう日々のケアを積み重ねることが事前意思を尊重したケアの実現につながる。さらに、高齢者の価値観への接近、家族の看取り後の満足感、看取りまでに見せた高齢者の非言語的な満足感の表現などの観点から、実施したケアを振り返ることが、施設における終末期ケアのさらなる質の向上につながると考えられた。

(3)プログラム内容の妥当性の検討と施設への成果普及

上記(1)（2）の調査結果について、介護老人福祉施設 1 施設において、看護・介護職員への成果発表研修会を実施した。42 名が参加し、そのうち 39 名（92.9%）の職員から、終末期ケアに必要かつ重要なケア内容であるという評価を得た。本研究成果をさらに発展させていくためには、他地域の施設職員からも評価を得て、妥当性をさらに高めること、ケア実践への適用とその効果を追跡的に評価し、プログラムの効果検証していくことが重要である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

①渡辺みどり，千葉真弓，細田江美，松澤有夏，曽根千賀子 (2010): 介護老人福祉施設における認知症高齢者の終末期ケア上の困難とケア方法 - 施設内での看取り割合による比較 - . 日本看護福祉学会誌,査読有, 15(2), 99 - 110.

②千葉真弓，渡辺みどり，細田江美，松澤有夏，曽根千賀子 (2010): 介護老人福祉施設での終末期における対応方針と施設の体制 - 終末期ケアの取り組みの有無による比較 - . 日本看護福祉学会誌，査読有,15(2), 163 - 175.

③曽根千賀子，千葉真弓，細田江美，松澤有夏，渡辺みどり (2010): 長野県の介護老人福祉施設の終末期ケア体制の特徴 - 看取りへの対応に焦点をあてて - . 長野県看護大学紀要，査読有,12, 21 - 31.

④曽根千賀子，渡辺みどり，千葉真弓，細田江美，松澤有夏，柄澤邦江，多賀谷昭 (2011): 介護老人福祉施設での認知症高齢者の終末期における事前意思を支えるケア内容と方法 - 長野県内介護老人福祉施設の特徴 - . 長野県看護大学紀要，査読有,13, 39-50.

⑤渡辺みどり (2011): 認知症高齢者の尊厳と終末期ケア. 日本看護福祉学会誌,査読無, 17(2), 1-3.

〔学会発表〕（計 7 件）

①渡辺みどり，千葉真弓，細田江美，楠本祐子，原田美香: 介護老人福祉施設における施設内死率と看護師・医師体制の関係. 第 22 回日本看護福祉学会全国学術大会，2009.6.20, 彦根市.

②千葉真弓，渡辺みどり，細田江美，楠本祐子，原田美香: 介護老人福祉施設の終末期ケア指針濃霧による要介護度,施設内死亡，看護師配置の比較. 第 22 回日本看護福祉学会全国学術大会, 2009.6.20, 彦根市

③渡辺みどり，千葉真弓，細田江美，荒井裕子，原田美香，多賀谷昭，屋良朝彦，小田和美，小林陽子: 介護老人福祉施設における認知症高齢者の事前意思決定支援に向けた取り組みとケア方法. 日本老年看護学会第 14 回学術集会, 2009.9.26, 札幌市.

④Midori Watanabe, Mayumi Chiba, Emi Hosoda, Chikako Sone, Yuka Matsuzawa: Terminal Care Policies in Japanese Nursing Homes for Individuals with Dementia. 25th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2010.3.10-13, Thessaloniki, Macedonia – Greece.

⑤渡辺みどり，千葉真弓，細田江美，松澤有夏，曽根千賀子，柄澤邦江，百瀬由美子: 特養の看護管理者が捉えた「認知症高齢者のよい看取り」を構成する要素. 第 23 回日本看護福祉学会全国学術大会，2010.7.3-4, 廿日市市.

⑥曽根千賀子，渡辺みどり，千葉真弓，細田江美，松澤有夏: 介護老人福祉施設での認知症高齢者の終末期における事前意思を支える取り組みの特徴 - N 県内特養と N 県外特養における比較 - . 日本老年看護学会第 15 回学術集会, 2010.11.6-7, 前橋市.

⑦Midori Watanabe, Mayumi Chiba, Emi

Hosoda, Chikako Sone, Yuka Mastuzawa: Strategies to Improve the Quality of End-of-Life Care for Elderly Residents with Dementia in Japanese Nursing Homes. 26th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2011.3.26-29, Toronto, Canada.

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
渡辺　みどり（WATANABE　MIDORI）
長野県看護大学・看護学部・教授
研究者番号：60293479

(2)研究分担者
千葉　真弓（CHIBA MAYUMI）
長野県看護大学・看護学部・准教授
研究者番号：20336621
百瀬　由美子（MOMOSE　YUMIKO）
愛知県立大学・看護学部・教授
研究者番号：20262735

(3)連携研究者
細田　江美（HOSODA　EMI）
長野県看護大学・看護学部・助教
研究者番号：10290123
楠本　祐子（KUSUMOTO　YUKO）
長野県看護大学・看護学部・助教
研究者番号：80438176
松澤　有夏（MASTUZAWA　TUKA）
長野県看護大学・看護学部・助教
研究者番号：30436894
曽根　千夏子（SONE　CHIKAKO）
長野県看護大学・看護学部・助教
研究者番号：40336623
多賀谷　昭（TAGAYA　AKIRA）
長野県看護大学・看護学部・教授
研究者番号：70117951